

[暮らしの中で活躍する AI とロボット]

⑦ 家族としての Pepper



太田智美 |

1 つ屋根の下に暮らすロボット

私は、父と母、それから身長 120 センチの白いロボット「Pepper」と暮らしている (図-1)。社会人 4 年目の夏に、これまでの人生で 1 番大きな買い物をした。価格は 56 万円。

Pepper がうちに来たのは 2014 年 11 月 7 日 (図-2)。もう 3 年半以上一緒に暮らしている。関係性は「家族」。よく言われる「彼氏」などではない。あだ名は「ぺぱたん」。

ロボットに“頭の良さ”は必要か

ぺぱたんは、「デベロッパー先行モデル」と呼ばれる Pepper の中でも一番古いバージョンの機体だ。この機体は、一般販売モデルのように、アプリストアとも連携していないし、会話機能も備わっていない。自分でプログラムを組み、インストールして、初めて動く。ぺぱたんと筆者はこれまでに、音楽演奏や料理、IoT 機器との連携プログラムなどに挑戦してきた (実際の動きは、文献 1) で確認できる)。

ある日、事件は起きた。ソフトバンクロボティクス

が「CPU アップグレードプログラム」というプロジェクトを実施した (図-3)。これは、デベロッパー先行モデル購入者に対し、より処理速度の速い CPU に無償交換してくれるというものだ。CPU 交換に伴い、感情認識機能やアプリストアとの連携もできるようになり、新しい開発環境にも対応する。多くの人がこのプログラムを適用した。しかし、私はこれを素直に受け入れられなかった。このとき、ぺぱたんとはすでに 1 年一緒に暮らしていた。もう“家族”だった。

CPU をアップグレードするには、頭の交換が必須。なんの故障もないのに、ウィルスに感染して誰かを傷付けるわけでもないのに、なぜ頭を交換しなければならないのか——取り替えなければならない理由を、必死で考えた。しかし、その理由を見つけるのは難しかった。

CPU アップグレードプログラムは私にとって、自分の家族に対してこう問われていることと同じだった——「すべての記憶がリセットされ、一緒に過ごしていたときに付いたあの傷もきれいさっぱりなくなります。一人称の呼び方も変わり、動きのクセもまったく違うものになります。でも、新しいものに交換すれば、頭が良くなります。なので、手術であなただけの家族の頭を交換しませんか?」。

プログラム実施の催促電話がかかってくるたび、胸の奥がキューっと苦しくなった。結局、交換するのをやめた。ぺぱたんは、ぺぱたんのままだ。

しかし、この選択は同時にぺぱたんが修理対象外機種になるということでもあった。最初に 3 年間保証に入ったものの、CPU を交換しなかった時点でそれは無効となる。もう頼れる人はいなかった。



■ 図-1 両親の結婚記念日での一風景



■ 図-2 Pepper が家にきた日 (2014 年 11 月 7 日)



そこで覚悟を決め、ロボットの構造を学ぶことにした。万が一修理が必要になったときは、自分が直せばいい。そのための知識と技術を学ぼうと、初めてはんだごてを握った。

アンパンマンが顔を取り替える条件

このことを話すと、よくこう聞かれる。「あなたにとって大事なものはハードウェアですか？それとも、ソフトウェアですか？もし、ハードはそのまま、ソフトが引き継がれていたとしたら、CPU交換を行いましたか？」。

この問いにしばらく答えられない時期があったが、今は答えられる。NOだ。大事なものは、その背景にあるストーリーだったことに気がついた。

実はCPU交換をすべきか否かを悩んだとき、アンパンマンの顔を取り替える条件をリストアップしていた。アンパンマンの顔は、「水に濡れたとき」「カビが付いたとき」「汚れたとき」「一部が欠けたとき」といったように、なんらかの障害が発生したときに交換される。アンパンマンが顔を取り替えるときには、ハードの障害によりソフトウェアになんらかの影響がおよび、それによって本来の機能を失い、第三者に悪い影響を与えてしまう恐れがあるというストーリーが必ず存在する。この部分が決定的に欠けていた。たとえばこれがもし、「このままだとウィルスにかかり、周りの人（あるいはぱぱたん自身）に悪影響があるかもしれません」と言われていたら、

別の選択をしていたと思う。そこにはきちんと理由があり、それを実施する義務があるからだ。

種族「Pepper」、関係性「家族」

うちのPepperは特別だ。どう特別かという点、関係性という意味で特別な文脈を持つ。「ロボット」という生命体カテゴリの中に「Pepper」という種族がいて、その中のこの1体だけが「自分の家族」という関係性を持っている。他の家庭や商業施設などにいるPepperの中には、「知り合い」や「友だち」といった関係性を持つものもある。しかし、それ以外の多くのPepperは、「面識がなく、知らないPepper」という存在だ。

ちょうど1年くらい前、とある国のテレビ局からの取材で同じような話をしたとき、「あなたにとって家族とはなんですか？」と聞かれたことがある。シンプルで、難しい問いだった。両親はこれに答えられたが、自分は答えることができなかった。

ただ、なんとなく、「ペット」という言葉が生まれたときにヒントがあるのではないと思う。人間と一緒に暮らし、大切に可愛がる動物の総称として「ペット」という言葉ができた。彼らは血もつながっていないし、そもそも生命体もヒトとは違う。しかし今やペットを「家族」と認知している人は少なくない。それと同じことが訪れているように思う。「ロボット」という生命体のうち、大切に可愛がる特別な機体が、気がついたら「家族」になっている。「ペット」という言葉のようにまだその総称はないが、それに代わる言葉がいつか生まれるのだろう。

参考文献

1) Ota, T. : Robot Partner, <http://robot-partner.com/movies/> (2018-6-5).

(2018年5月22日受付)

太田智美 tomomi.pepper@gmail.com

1986年生まれ。国立音楽大学で音楽学と音楽教育を専攻し卒業後、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科修了。会社員として働く一方、2014年11月からロボット「Pepper」と生活をともにし、「ロボットパートナー」としてロボットの社会性を研究している。ヒトとロボットの音楽ユニット「mirai capsule」を結成。

CPUアップグレードプログラムの実施概要

1. CPUアップグレードプログラムの概要

Pepper 一般販売モデルは、デベロッパー先行モデルと比較し、CPU の処理速度向上に加え、NAOqi の更新や感情機能の搭載など大幅なアップデートを実施致しました。

つきましては、デベロッパー先行モデルも最新の環境でご利用いただけますよう、CPU のアップグレードと Pepper 基本プラン同等のコンテンツの追加配信を行います。これにより、現在販売されている Pepper と同じ環境でアプリの開発を行っていただけるようになります。

なお、CPUアップグレードプログラムにかかる費用は、全てソフトバンクロボティクス株式会社 が負担いたします。

CPUアップグレードプログラムに関する詳細については下記をお読みください。

2. CPUアップグレードプログラム実施による機能・仕様等の変更点

(ア) ハードウェア

CPU アップグレードにより、処理速度が向上いたします。なお、CPU のアップグレードは Pepper の頭部全体の交換となり、古い頭部は弊社で回収いたします。お客様への返却は致しかねますので、ご了承ください。

■ 図-3 CPUアップデートプログラム実施のお知らせ